

子どもの未来応援団報告書

表題：世界一周大学が箕輪にやってきた

学校・団体名：世界一周大学

活動グループ名：世界一周大学

担当者・教諭名：佐野日菜

活動人数：35人

(1) 活動を始めた理由

伊那谷地域において、若い世代は都市部に出ていってしまうことが多く、地元の中高生が大学進学具体的なイメージを持ちにくいという課題がある。また、中高生の生活範囲は家と学校が中心であり、家族や学校外の人と関わる機会が少ない。これにより、多様な価値観に触れる機会が限られてしまう。この状況を改善し、地元の中高生の視野を広げることを目的として本イベントを企画した。

(2) 活動内容・活動の写真(カラー)

本活動は、全国の大学生・若手社会人が所属するコミュニティ「世界一周大学」の学生が企画し、箕輪町の木下駅前にあるUTパレットのメンバーの協力を得て実現した。

具体的な内容は以下の通り。

- 事前に参加者(中高生)から話したいテーマを募集。4つのテーマをピックアップし、3~4人のグループでディスカッションを実施。各グループには中高生と世界一周大学の学生を混ぜ、多様な視点から対話を促進。テーマごとにグループを変更し、異なる参加者と交流できる仕組みを導入。テーマの内容は「好きなお菓子は？」といったラフなものから、「何か決断するとき大切にしていることは？」といった人生に関わる深いものまで幅広く設定。



- イベント中には、地元の方から提供していただいたジビエやカレーを食べる時間も設け、リラックスした雰囲気での交流を深めた。



(3) 活動結果

本イベントを通じて、以下の成果が得られた。

- 中高生は大学生や旅をしている人、フリーランスで働いている人などの話を聞き、知らなかった価値観や選択肢に触れることができた。
- 進学についての悩みが解消されたという声があった。
- 中高生にとって、家族や学校以外の大人と話す貴重な機会となった。
- 世界一周大学の学生にとっても、自分の考えを言語化する良い機会となり、自己理解を深めるきっかけとなった。

本イベントは、地元の中高生の世界を広げるという目的を達成するとともに、地域の人々や外部の大学生・社会人とのつながりを生み出す場となった。今後もこのような機会を継続し、さらなる交流と学びの場を提供していきたい。